

## 60分でわかる旧約聖書(26) 「エゼキエル書」

### 1. はじめに

#### (1) 預言者たちの中でのエゼキエルの位置づけ

##### ① 預言書を書いた預言者 (the writing prophet)

\* 王国が南北に分裂して以降に登場した (前 930 年頃)。

② 同世代の人たちに、神のことばを伝えた。「預言者」である。

③ 将来起こることを預言した。「予言者」である。

④ エゼキエル書は、大預言書である。

⑤ エゼキエルは、捕囚期の預言者である。

#### (2) エゼキエル書の特徴

##### ① エゼキエルという名前の意味

\* 「神は励ます」、「神によって励まされた」など。

② エゼキエル書は、「最も難解な預言書」として知られている。

\* しかし、無視するならば、旧約で最も霊的な部分を見逃したことになる。

③ この書の預言は、時系列に沿って配置されている。

\* 例外は、エゼ 29 : 1 から始まる預言と、29 : 17 から始まる預言だけ。

\* この例外は、エゼ 29~32 章 (エジプトに対する預言) がテーマ別に並んでいるために起こっているものである。

#### (3) 時代背景

##### ① 第 1 回バビロン捕囚 (前 605 年)

\* エホヤキムの治世の第 3 年 (ダニ 1 : 1)

\* この時、ダニエルがバビロンに連行された。

##### ② 第 2 回バビロン捕囚 (前 597 年)

\* エホヤキンの治世 (彼の治世はわずか 3 ヶ月)

\* この時、エゼキエルがバビロンに連行された。

##### ③ 第 3 回バビロン捕囚 (前 586 年)

\* エルサレムが陥落し、神殿が破壊された。

④ エゼキエルは、前 593 年から預言者としての活動を開始した。

\* エホヤキンが捕囚となって 5 年目である (エゼ 1 : 2~3)。

\* 活動は、前 571 年まで続いた (エゼ 29 : 17)。

\* 30 歳から 52 歳までの約 22 年間の活動であった。

⑤ 活動開始時点では、まだエルサレムは陥落していなかった。

\* エゼキエルは、エルサレムと神殿の崩壊を預言した。

\*捕囚民たちは、依然としてエルサレム帰還の希望を持っていた。

## 2. アウトライン

- (1) エゼキエルの経歴
- (2) エゼキエル書の特長
- (3) エゼキエル書のアウトライン
- (4) エゼキエル書の文学手法
- (5) エゼキエルと他の預言者の対比

エゼキエル書の内容について学ぶ。

### I. エゼキエルの経歴

#### 1. 詩 137:1~2

Psa 137:1 バビロンの川のほとり、／そこで、私たちはすわり、／シオンを思い出して泣いた。

Psa 137:2 その柳の木々に／私たちは立琴を掛けた。

- (1) 捕囚民たちは、歌を歌うこともなく、シオンを思い出して泣いた。
  - ①捕囚民たちの心の状態がよく表現されている。

#### 2. エゼ 1:1

Eze 1:1 第三十年の第四の月の五日、私がケバル川のほとりで、捕囚の民とともにいたとき、天が開け、私は神々しい幻を見た。

- (1) 捕囚民たちが嘆いている時に、エゼキエルは神々しい幻を見た。
  - ①罪を糾弾すると同時に、苦難の時には希望を語るのが預言者の使命である。
  - ②彼は、エルサレム陥落までは、民の罪を糾弾する。
  - ③エルサレム陥落以降は、回復の希望を語る。
  - ④「第三十年」は、エゼキエルが預言者として召された時の年齢である。

#### 3. エゼ 1:3

Eze 1:3 カルデヤ人の地のケバル川のほとりで、ブジの子、祭司エゼキエルにはっきりと【主】のことばがあり、【主】の御手が彼の上にあった。

- (1) ゲバル川のほとり
  - ①灌漑用水路として造られた川である。
  - ②そこにテル・アビブという町があり、捕囚民たちは、そこに住まわされた。
  - ③エゼキエルの奉仕は、テル・アビブに住む捕囚民に対するものであった。
- (2) エゼキエルは、ブジの子で、祭司であった。

- ①30歳から祭司の働きが始まるが、エゼキエルは預言者の奉仕を始めた。
- ②旧約聖書には、3人の祭司-預言者が登場する。
  - \*エレミヤ、ゼカリヤ、エゼキエル
- ③祭司であったことがメッセージの内容に影響している。
  - \*エルサレムの神殿に対する強い関心
  - \*【主】の栄光の強調
  - \*エルサレムにいる祭司たちの行動への関心
  - \*将来の神殿の預言

## II. エゼキエル書の特長

### 1. 神の栄光の強調

#### (1) エゼ 1:28

**Eze 1:28** その方の回りにある輝きのさまは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、それは【主】の栄光のように見えた。私はこれを見て、ひれ伏した。そのとき、私は語る者の声を聞いた。

- ①預言者として召される前に見た神の栄光

#### (2) エゼ 3:12

**Eze 3:12** それから、霊が私を引き上げた。そのとき、私は、うしろのほうで、「御住まいの【主】の栄光はほむべきかな」という大きなとどろきの音を聞いた。

- ①捕囚民のところに行く前に見た神の栄光

#### (3) エゼ 11:22~23

**Eze 11:22** ケルビムが翼を広げると、輪もそれといっしょに動き出し、イスラエルの神の栄光がその上のほうにあった。

**Eze 11:23** 【主】の栄光はその町の真ん中から上って、町の東にある山の上にとどまった。

- ①【主】の栄光が神殿を去り、オリーブ山の上にとどまった。
- ②これ以降、主イエスが神殿に入られるまで、神の栄光は去ったままになった。

#### (4) エゼ 43:4~5

**Eze 43:4** 【主】の栄光が東向きの方角の門を通過して宮に入って来た。

**Eze 43:5** 霊は私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、【主】の栄光は神殿に満ちていた。

- ①千年王国の神殿に【主】の栄光が戻って来る。

## 2. 神の性質の強調

### (1) エゼ 20:9

**Eze 20:9** しかし、わたしはわたしの名のために、彼らが住んでいる諸国の民の目の前で、わたしの名を汚そうとはしなかった。わたしは諸国の民の目の前で彼らをエジプトの地から連れ出す、と知らせていたからだ。

①神がイスラエルの民をエジプトから連れ出したのは、ご自身の榮譽のためであった。

②神は、契約を守るお方である。

③「わたしの名を汚そうとはしなかった」という表現は、15回出てくる。

### (2) エゼ 6:7

**Eze 6:7** 刺し殺された者があなたがたのうちに横たわるとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう。

①人々の罪が裁かれるとき、民は【主】がそれを為したことを知るようになる。

②「わたしが【主】であることを知ろう」という表現は、60回以上出てくる。

## III. エゼキエル書のアウトライン

### 1. 預言者としての召命(1~3章)

### 2. ユダに対する裁きの宣言(4~24章)

#### (1) 不従順な民(4~7章)

#### (2) 去って行くシャカイナグローリー(8~11章)

#### (3) 空しい希望と霊的腐敗の歴史(12~24章)

### 3. 異邦人諸国に対する裁きの宣言(25~32章)

### 4. 神の民の回復(33~48章)

#### (1) 祖国帰還(33~36章)

#### (2) 新しい命の約束と統一化の預言(37章)

#### (3) 敵からの守り(38~39章)

#### (4) 【主】を礼拝する民(40~48章)

## IV. エゼキエル書の文学手法

はじめに

(1) 頑なな民に神のことばを伝えるための手法

(2) 民の応答を引き出すために、ドラマチックな手法を採用した。

### 1. ことわざ(格言)

(1) エゼ 12:22~23

**Eze 12:22** 「人の子よ。あなたがたがイスラエルの地について、『日は延ばされ、すべての幻は消えうせる』と言っているあのことわざは、どういうことなのか。

**Eze 12:23** それゆえ、神である主はこう仰せられると言え。『わたしは、あのことわざをやめさせる。それで、彼らはイスラエルでは、もうくり返してそれを言わなくなる。かえって、その日は近づき、すべての幻は実現する』と彼らに告げよ。

①人々は、預言者の預言は成就しないといていた。

\*日々は過ぎ去るが、預言は成就していない。

\*預言者の幻は、消えてなくなる。

②【主】は、そのことわざは無効になると言われる。

(2) その他の聖句

①エゼ 16:44、18:2~3

2. 幻

(1) エゼ 37:9~10

**Eze 37:9** 主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」

**Eze 37:10** わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。

①枯れ骨の谷の幻

②イスラエル再生の預言

③イエスを信じるユダヤ人たちが約束の地に帰還したときに、この預言は成就する。

(2) その他の聖句

①1~3章(【主】の栄光)

②8~11章(神殿での偶像礼拝)

③40~48章(千年王国の神殿)

3. たとえ話

(1) エゼ 17:1~24(二羽の鷲とぶどうの木)

①謎解きを必要とするたとえ話である。

②ぶどうの木は、ゼデキヤである。

③ネブカデネザル(最初の鷲)か、エジプト(次の鷲)か。

(2) エゼ 24:1~14 (火の上の鍋)

- ①バビロン軍によるエルサレムの崩壊
- ②鍋はエルサレム、肉はユダヤ人たち、火は神の裁き。
- ③鍋は空にされ、火で清められるが、さびは落ちなかった。

4. 象徴的行為

(1) エゼ 12:4~6

**Eze 12:4** あなたは、白昼彼らの目の前で、自分の荷物を、捕囚の荷物として持ち出しなさい。また、夕方彼らの目の前で捕囚の民が出て行くように、出て行きなさい。

**Eze 12:5** 彼らの目の前で、壁に穴をうがち、そこから荷物を運び出しなさい。

**Eze 12:6** 彼らの目の前で、荷物を肩に担ぎ、暗闇の中で運び出しなさい。顔を覆ってこの土地を見ないようにしなさい。わたしはあなたを、イスラエルの家に対するしるしとする。」

- ①エルサレムの崩壊を信じない民に対するメッセージである。

(2) その他の聖句

- ①エゼ 4~5章
- ②エゼ 24:15~27

V. エゼキエルと他の預言者の対比

1. エゼキエル、エレミヤ、ダニエルは、同時代の預言者たちである。

(1) エレミヤ

- ①エゼキエルよりも年上。すでに老年になっていた。
- ②エレミヤは、残れる者たちとともに約束の地に留まった。
- ③その後、エジプトに連行された。
- ④彼の最後の奉仕は、エジプトに住むユダヤ人たちのためのものであった。

(2) ダニエル

- ①ダニエルは、バビロンにある王宮に連行された。
- ②そこで高い地位に就き、重要な預言を語った。
- ③テル・アビブを訪問したことはないが、ユダヤ人たちを擁護した。

(3) エゼキエル

- ①彼は、ケバル川で捕囚民とともに住み、そこで奉仕をした。
- ②いわば、庶民のための奉仕であった。

- (4) この3者には面識はなかったと思われる。  
①ダニエルは、エレミヤの預言を知っていた。
- (5) それぞれが、自分に与えられた任務を忠実に果たした。

## 2. 三位一体の神との関係

- (1) イザヤは、子なる神の預言者である。  
①彼は、メシアの誕生を預言した。  
②彼は、メシアの受難を預言した。
- (2) エレミヤは、父なる神の預言者である。  
①彼は、父なる神の涙を自分の涙とし、民に悔い改めを迫った。  
②父なる神が契約に忠実な方であるがゆえに、民には希望があると語った。
- (3) エゼキエルは、聖霊なる神の預言者である。  
①父なる神が計画し、子なる神が実行し、聖霊なる神が完成へと導く。  
②エゼ37章の枯れ骨の民の幻は、聖霊なる神の働きを預言している。  
③エゼ37章はいつ成就するのか。  
\*ユダヤ人たちの霊的回復  
\*メシアの再臨  
\*千年王国の設立